

医学生 臨床実習Ⅱ（2週間コース）

研修プログラム

小児科

【当院および当院における診療科の特性・特徴】

当院は、備北二次医療圏の（小児）拠点病院である。当院の常勤小児科医と広島大学、地域開業医が交代で、外来診療を担当し、24時間救急対応体制をとって、地域（小児）医療に貢献している。少子高齢化の進む地域であるが、小児科医も少なく島根県南部からの患者も多い。

【一般目標 GIO】

- 1) 総合診療：小児科の臨床研修においては、子どものからだ、心理、こころの全体像を把握し、医療の基本である『疾患をみるのではなく、患者とその家族をみる』という全人的な観察姿勢を学ぶ。
- 2) 救急医療：小児救急は、まずは軽症から重症までのすべての病児を診て対応するところから始まる。そして、病児を重症度に従ってトリアージできることが要求される。成人と異なる小児救急医療の実際を経験する。
- 3) 健康支援科学：予防接種や乳幼児健診など疾病の予防に関わる知識と技術を学ぶ。
- 4) 周産期医療：新生児医療の知識と技術を学ぶ。

【到達目標（行動目標） SBO s】

- 1) 小児医療の特殊性について理解する。
- 2) 小児の成長発達について理解する。
- 3) 小児保健について理解する。
- 4) 周産期医療について理解する。

【実習の注意】

- 1) 小児は自分の言葉で十分に訴えることができない。保護者の訴えによく耳を傾け、正しく所見をとることが大切である。
- 2) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 3) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 4) 守秘義務、個人情報管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。

5) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

【実習の内容 LS】

1) オリエンテーションと中間評価

- ① オリエンテーション：研修の始まる第1週の月曜日 8:30 より病棟にて行う。週間スケジュール について概説する。
- ② 中間評価：毎月曜日の病棟カンファレンスにて、中間評価（形成的評価）を行う。学習できていることとできていないことを確認し、週間目標を設定する。

2) 病棟研修:基本的処置の習得、および入院患者の状態の把握と対応について、入院患者の毎日の診療場面を通じて、指導医とともに経験する。

3) 外来診療研修:基本的検査法・診察法を経験する。

4) 救急外来研修：小児救急患者の処置・対応を、指導医とともにに行い経験する。

5) カンファレンス：症例プレゼンテーションを実践する。また、研修医・専任指導医の知識・技能・態度について振り返り、研修医と専任指導医にフィードバックする。

【週間スケジュール】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30 病棟カンファレンス 9:00 外来	8:30 病棟カンファレンス 9:00 外来	8:30 病棟カンファレンス 9:00 外来	8:30 病棟カンファレンス 9:00 外来	8:30 病棟カンファレンス 9:00 外来
午後	予防接種 心臓外来	予防接種 慢性外来	乳児健診	予防接種	予防接種 慢性外来)

帝王切開、立ち合い分娩などに指導医とともに参画する。

夜間救急：日程調節のうえ指導医とともに、週1回程度夜間救急に参画する。

【評価 Ev】

- ① 医療者としての行動、態度の評価（20点）
- ② 医療関係者、保護者とのコミュニケーション能力（20点）
- ③ 患者の症例提示（20点）
- ④ カルテ内容の記載（20点）
- ⑤ 小児科領域における知識到達度（20点）

以上の5項目について採点して総合評価（100点満点）を行う。

【参考図書，文献】

- ・小児科学新生児学テキスト 全面改訂第3版 診断と治療社
- ・小児救急学習用テキスト 原著第4版 診断と治療社
- ・小児科診療ガイドライン 総合医学社
- ・小児疾患の治療 中外医学社
- ・その他研修医、若手医師向けの書籍が多数ある。

【小児科医師一覧・専門領域などの紹介】

主任医長 小野 厚

日本小児科学会小児科専門医・指導医

医長 則松 知章

日本小児科学会小児科専門医

医員 出雲 大幹

日本小児科学会小児科専門医

医員 江口 勇太